

保護者へのサポートに関するアドバイスつき

卒園前後の保護者の意識

ベネッセ次世代育成研究所が実施した調査「小1ママと子の放課後生活レポート」を紹介します。今回は調査結果に基づいて、東京学芸大学の岩立京子先生から保護者へのサポートに関するアドバイスをいただきました。卒園・入学を控えた保護者支援の参考としてぜひご活用ください。

今回ご紹介するデータの調査概要

調査テーマ 小学校入学と放課後生活の実態、母子の生活変化
調査対象 小学校1年生の第一子を持つ母親 1,500人
調査地域 日本全国（平成19年度文部科学省「学校基本調査」の小学生の児童の人口分布を参考に、地域別の構成比を合わせている）
調査時期 2009年12月25日～27日

調査方法 インターネット調査
調査項目 小学校入学に向けての不安や準備、放課後の過ごし方の実態、学童保育所の利用実態、母親の就労変化、母と子の生活や悩みの変化、子育て支援へのニーズなど

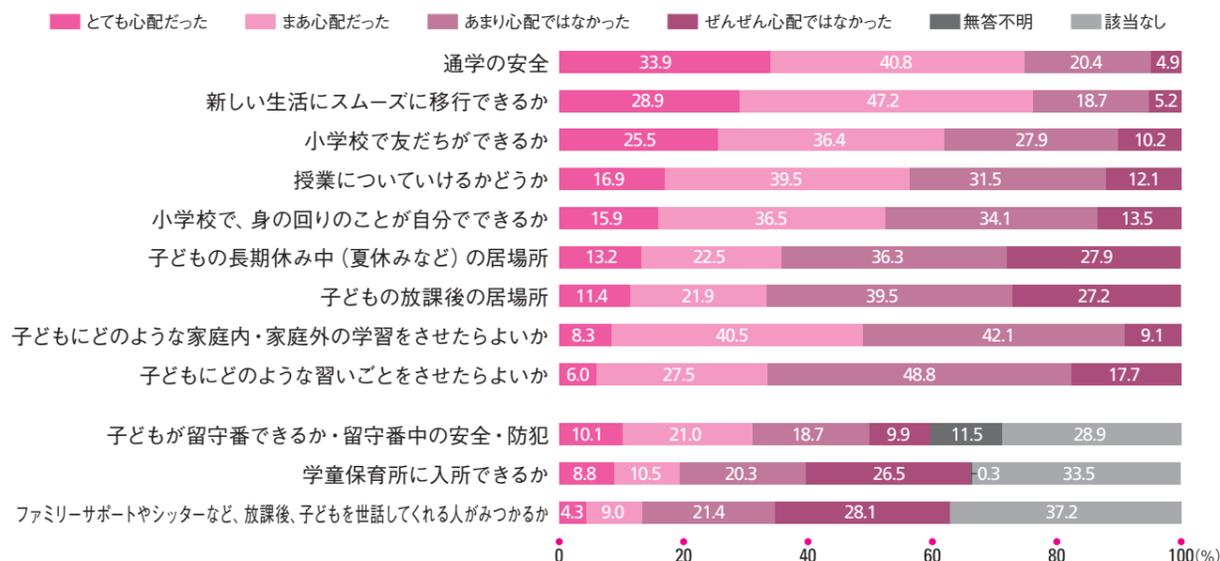
引用・掲載する際のお願い

「ベネッセ次世代育成研究所「小1ママと子の放課後生活レポート」(2009)」と記載してください。
 詳細の結果はベネッセ次世代育成研究所ホームページをご覧ください。 → <http://www.benesse.co.jp/jisedaikcn/>

入学前の心配事は「通学の安全」「新生活へのスムーズな移行」

Q お子さんが小学校に入学するにあたり、保護者としてどのようなことが心配でしたか。

図1 【入学前】小学校入学に向けての心配ごと



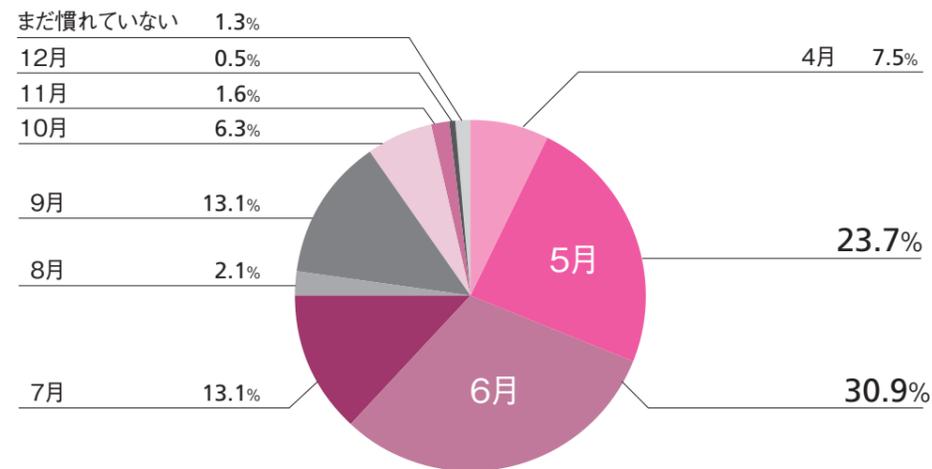
注1 学童保育所やファミリーサポート等の利用がない場合、子どもに留守番をさせない場合は「該当なし」を選択。

★「通学の安全」と「新しい生活にスムーズに移行できるか」を心配(とても心配+まあ心配)する母親が7割以上を占めました。次いで、「小学校で友だちができるか」で、子どもが小学校生活を順調にスタートできるかどうかを心配している母親が多いことがわかります。

子どもが小学校生活に慣れてきたと感じるのは、5～6月が多い

Q お子さんが小学校生活に慣れてきたと感じられたのはいつごろですか。

図2 【入学後】小学校生活に慣れる時期

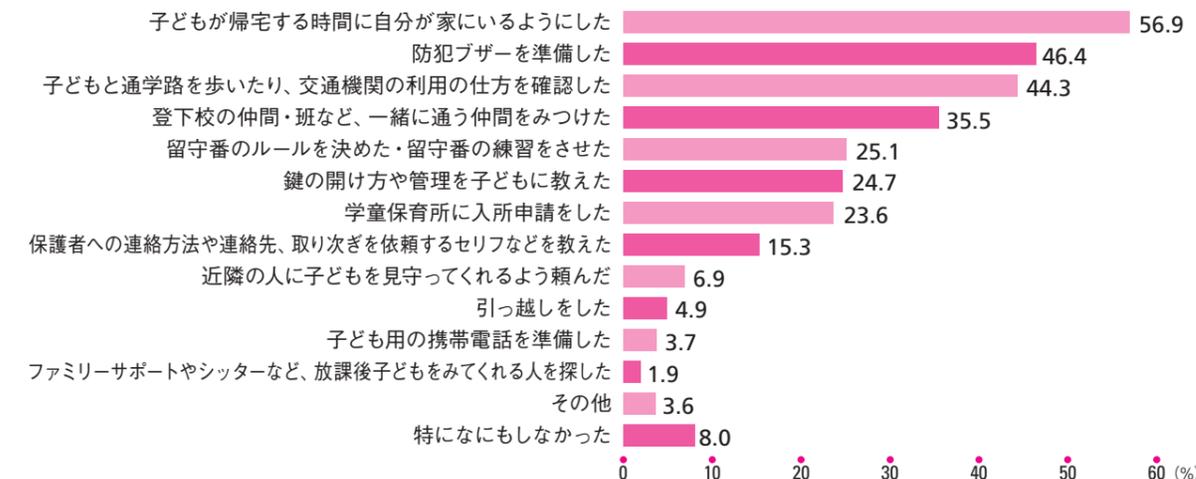


★子どもが小学校生活に慣れてきたと感じられたのは「6月」がもっとも多く、次いで、「5月」となりました。一般的に授業が通常のサイクルになり、給食も始まって、小学1年生としての生活スタイルが固まるころです。「4月」～「7月」までを合わせると、7割強の母親が、1学期の間に子どもが小学校生活に慣れてきたと感じています。

安全対策として、母親の6割強が子どもの帰宅時に在宅している

Q お子さんの小学校入学にあたり、放課後の安全確保を目的として行ったことについて、あてはまるものをすべて選んでください。

図3 【入学後】放課後の安全対策



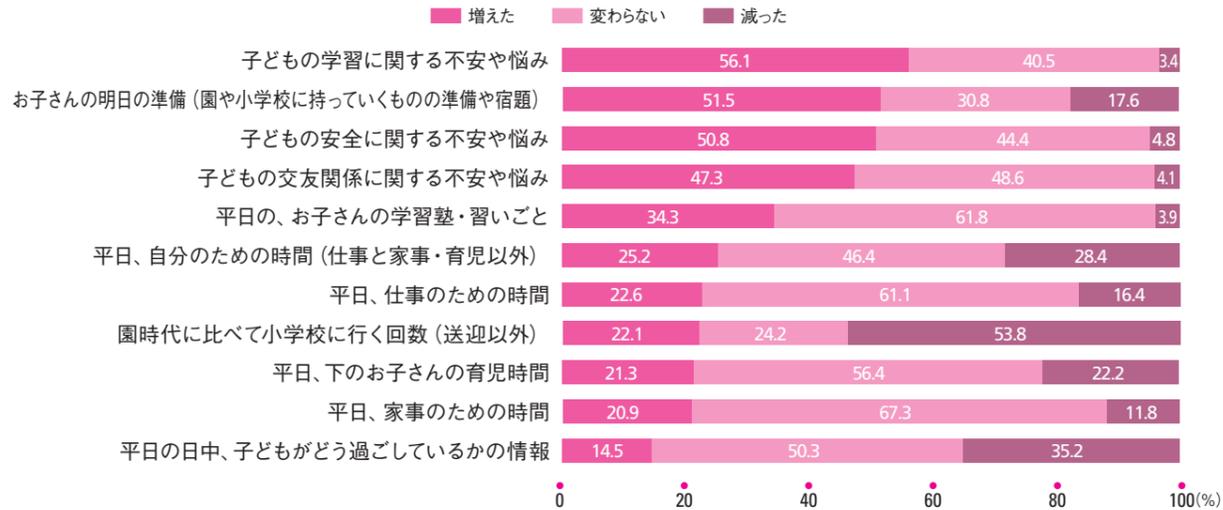
注1 複数回答

★最も多かったのは、「子どもが帰宅する時間に自分が家にいるようにした」で、全体の56.9%が選択しています。専業主婦だけでなく、働く母親も含まれていました。次いで、「防犯ブザーを準備した」が46.4%、「子どもと通学路を歩いたり、交通機関の利用の仕方を確認した」が44.3%で、登下校の通学路での安全対策が多いことがわかります。

入学後に増えたのは、明日の準備と安全に関する不安や悩み

Q お子さんの小学校入学前と入学後で、あなたとお子さんの生活はどう変わりましたか。

図4 【入学後】小学校入学前後の母と子の生活変化



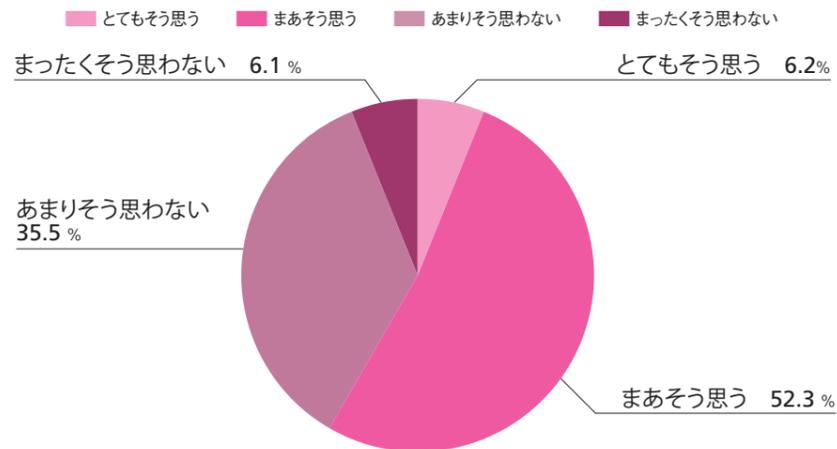
注1 各項目には「該当しない」という選択肢を準備した。「該当しない」回答は除いて集計。

★入学前後で、母親と子どもの生活や母親の悩みの変化をたずねています。最も増えたのは、小学生になることで新たに出現した悩みである「子どもの学習に関する不安や悩み」で、56.1%。「お子さんの明日の準備」が51.5%で続いています。また、園時代に比べると、小学校に行く回数が減った人が多く(53.8%)、保護者と先生との接点が少なくなっています。

入学を機に子育てから手を離そうと思う母親が約6割

Q お子さんが小学1年生になったことで、「これまでよりも子育てから手を離してみよう」と思うようになりましたか。

図5 【入学後】小学校1年生の母親の子育てに対する意向



★全体で6割弱の母親が、子どもが小学生になったことで、これまでよりも子育てから手を離してみようと思っています。「とてもそう思う」+「まあそう思う」。その理由を複数回答で聞いたところ、「子どもが身の回りのことがだいぶできるようになったから」(76.9%)が最も多く、子ども自身の成長を実感していることがうかがえます。

調査データを踏まえ、
卒園前の保護者のサポートを考える

幼児期の発達と 一人ひとりの個性を知る園だから できるサポートがあります

今回の調査結果について、東京学芸大学の岩立京子先生に、卒園・入学を控えた子どもを持つ保護者を園としてどのようにサポートできるか、お話をうかがいました。



東京学芸大学 総合教育科学系教授
岩立京子

専門分野は発達心理学、幼児教育。編著書に「事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」(萌文書林)、「乳幼児心理学」(北大路書房)など。

卒園・入学という環境変化を 保護者に理解してもらう

小学校入学にあたって保護者は「スムーズに子どもを小学校の生活に慣れさせたい」と願っているはずですが。今回の調査データでも、保護者自身が「園と小学校の環境は大きく異なる」と考えており、不安を抱えていることがよくわかります(P18図1)。

大人であっても新しい職場などそれまでと違う環境に身を置くのは大変なストレスです。子どもも小学校入学で新しいルール、生活リズムにさらされ、戸惑い、混乱します。そのため、今までできていた身の回りのことができなくなったりすることも珍しくありません。それだけ子どもにとって小学校入学による変化は大変なことなのです。

ですから、園の先生が「小学校に入ってから今までできていたことが突然できなくなることもあるかもしれませんが、心配しなくていいですよ」と保護者に卒園前に伝えてあげられれば、保護者は安心して子どもを見守ることができるでしょう。

小学校生活に本当に 慣れるまでには時間がかかる

入学して1か月くらいすると保護者の不安の内容も「新生活に慣れるか」から「学習についていけるか」に変わってきます。確かに、子どもは1か月くらいすると小学校の生活にも慣れ、一見落ち着いたように見えます(P19図2)。ただ、それはあくまでも生活パターンに慣れたという意味であり、先生やお友だちとの関係に慣れるにはもう少し時間が必要です。そのため、保護者が慣れたかなと思いつつ、子どもが急に甘えだしたり、様子が変わって見えることもあります。「本当に慣れるまでには半年

くらいはかかるものだ」と長い目でみてあげてください」と園の先生から保護者に伝えるといいでしょう。

保護者は、「小学校に入学したのだから、少しずつ子どもから手を離そう」と考えているものです(P20図5)。もちろんそれは子どもの成長のためにも必要なことです。しかし、小学生になった途端、すべての子どもが自分の机で勉強できるというわけではなく、保護者の姿が見える場所でない安心して勉強できない子どももたくさんいます。ゆっくと手を離しつつ、子どもの育ちを見守ることが大切なのだ」と園の先生からぜひ保護者にアドバイスしてほしいと思います。

現場のみなさんへ

小学校に入ったからといって子どもは一気に変わるわけではありません。幼児期の子どもの発達と一人ひとりの子どもの個性を踏まえたアドバイスは、園の先生だからこそできるものです。さまざまな不安を抱える保護者に対して、「どんなことでも相談してください。一緒に考えていきましょう」と園の先生が声をかけることで、保護者の気持ちはきっと楽になるはずです。